

令和2年度 施設自己評価結果報告書

令和3年3月31日

学校法人蒲原学園
清水やぐらこども園

1. 本園の教育目標

目指す子どもの姿

- ・健康で明るい子 ・心豊かな子 ・自分の考えを持ち主体的に活動できる子
- ・体を鍛え、粘り強い子 ・適応力を身に付けて協調性に富んだ子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

目標：心身ともに健やかな育成のため、豊富な経験を通して何事にも取り組む意欲を身に付ける

計画：昨年度のフィードバックを基に、保育環境を整え、効率的にカリキュラムを進行させる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組み内容及び評価理由
カリキュラムの効率化	A	昨年度の反省を踏まえ、年間スケジュールを効率化し、カリキュラムに取り組む時間を増やすことができた
職員の相互協力体制	B	パート職員が増えたことで勤務体制には余裕ができた。その反面職員間の意思疎通に苦労する面があった。
保育環境の向上	B	前年度より園児数が増え、使用できる予算が増えたことにより、保育用品の整備が進んだ。継続的に保育環境を向上させる計画を立てる。

※評価基準 A：充分達成 B：達成 C：成果が不十分 D：取組が不十分

4. 今後取り組むべき課題

開園から2年目が終わり、2年間のフィードバックを基に園の運営方針を柔軟に変更していく必要がある。乳児の園児数が徐々に増えていくので、設備投資を随時行っていく。

来年以降も職員が増えていくので、職員間の風通しを良くし、総力をもって子どもたちの教育・保育を行っていくようにする。

令和2年度の報告

令和2年度は何といても「新型コロナウイルス」への対応に追われた年度だったと言える。年度スタートから登園自粛の願いが出され、未知のウイルスに対しての不安が募る中、仕事を休むことができない保護者のためにこども園は開所を続けることとなり、職員に大いに助けられた。飲食店などは休業・廃業が多く出る中、認定こども園は従来通りの施設給付金を得ることができ、普通に運営できるだけでも幸せだと感じる時もあった。

そんな状況の中、園児にも職員にも新型コロナウイルス感染者を出すことなく1年を終わる事ができたのは、園に関係する方々の協力の賜物であり、年度を終わるにあたり、評価に値する事であると感じている。

清水やぐらこども園が開園して2年が過ぎ、先生方にはしっかりと立上げ期を支えていただき、認可こども園として恥じる事のないレベルの園に育ってきた。

来季に向けては、安全にお預かりする事はもちろん、現状に満足することなく、さらに教育・保育の質を高めていく為の準備を進めていきたいと思っている。

5. 来年度に向けて

来年度は、園全体の包括的な形を示す年度となる。職員もほぼ全員の人数が揃うことになり、協調性が問われることとなる。年中行事やカリキュラムを年間のスケジュールに落とし込み、準備段階から計画性を持った進捗管理を行いたい。

新型コロナウイルスの影響が心配されるが、子どもたちに最善を尽くす事に変わりはない。

6. 学校関係者からの評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められた。

7. 財務状況

公認会計士による会計監査により、適性に運営されていると認められた。

8. 静岡市による監査結果

文書指摘事項はありませんでした。